

## 第 205 回 暮らしの SDGs 学習会 記録

1. **参加者** (敬称略) 増永、吉永、横田、平手、大塚、難波、小川、前崎、  
松島 (予防医学研究会)、筒井 (記)
2. **日時** 2024 年 12 月 13 日 (金) 14:00 ~ 15:30
3. **場所** 電力中央研究所我孫子地区 (以下同所) を見学
4. **テーマ** 同所では気候変動対策等に関してどんな基礎研究を行っているか見学する
5. **説明** 電力研究所概要 同所運営センター副所長 庄子英明氏  
施設案内・説明 同所運営センター 稲田恵美子氏
6. **内容** 初めに、上記庄子氏より電力中央研究所の概要説明があり、その後に稲田氏の案内で、国道 6 号線を挟んで北構内 3 ヲ所、南構内 2 ヲ所を見学した。  
(概要説明、見学の内容は以下の通りです)
  - \* 電力中央研究所は 1951 年に国内の電力会社に貢献する研究を行う為に、最初に東京都狛江市に研究所が設立され、現在は大手町地区を中心に 4 地区あり、更に赤城試験センター、塩原実験場がある。昨年度の決算は 316 億円、人員は 753 名であり、我孫子では主に自然・環境科学の研究を行っている。
  - \* 最初に、大型造波水路を見学、同水路は我孫子地区で最初のころにできた設備で、全長が約 200m あり、波に対する消波ブロックの効果の実験等に使われてきた。
  - \* 次に、スーパーコンピューターを見学、これは最近導入した H P 製のコンピューターで、富岳ほどではないが、超高速の演算性能を持っている。
  - \* 次に、植物栽培温室を見学、ここではバナナの栽培等の実証実験を行っており、持続可能な食糧生産の実現を目指している。
  - \* 次に、北構内から南構内へ構内連絡車で移動 (国道 6 号線を挟み北と南に分かれており車移動が必要)、津波・氾濫流水路を見学、これは上記大型造波水路では、大規模な津波等の実験が難しいために設置し、津波等の波の動きや、防波堤の強度の実験等に使用している。
  - \* 最後に、ヘルカル X 線 CT スキャナーを見学、この装置は、人体を観察するための医療用 CT スキャナーと同じで、透視にかかる時間が短く人体ほどの大きさの試験体が撮影できるため、ボーリングコアなど地質資料の撮影に適している。主に活断層の地震時の動きの解析などに使っており、原子力発電所の原子炉などの重要設備は、活断層の影響範囲外になるよう設計に役立っている。

\* 次ページに見学時の写真の一部を掲載

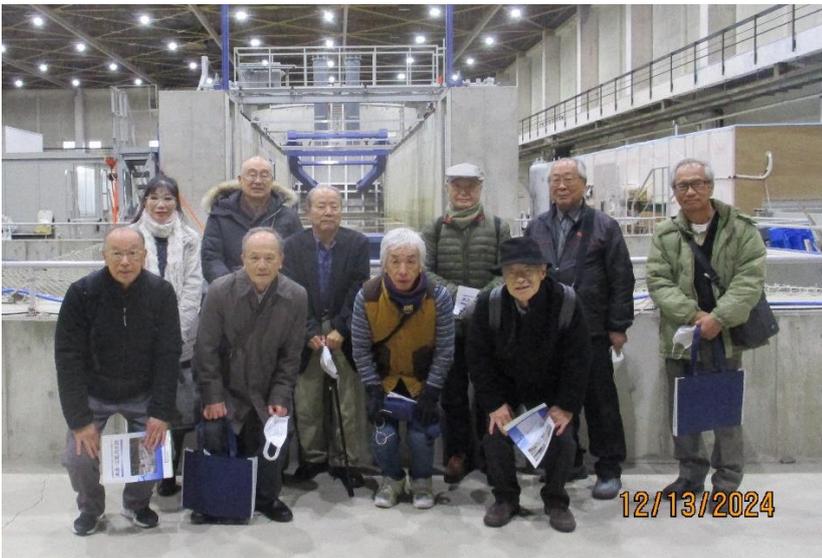
### <次回予定>

- 日時** : 2025 年 1 月 16 日 (木) 13:30 ~ 15:00  
**場所** : 生涯学習センター 3F 大会議室  
**内容** : 北海道北斗市におけるバイオマス発電について  
**講師** : 山崎克美氏 上記発電所責任者 元京葉ガスエンジニアリングソリューション社長

電力中央研究所の概要について説明を受ける



津波・氾濫流水路をバックに撮影



本館の看板の前で撮影

